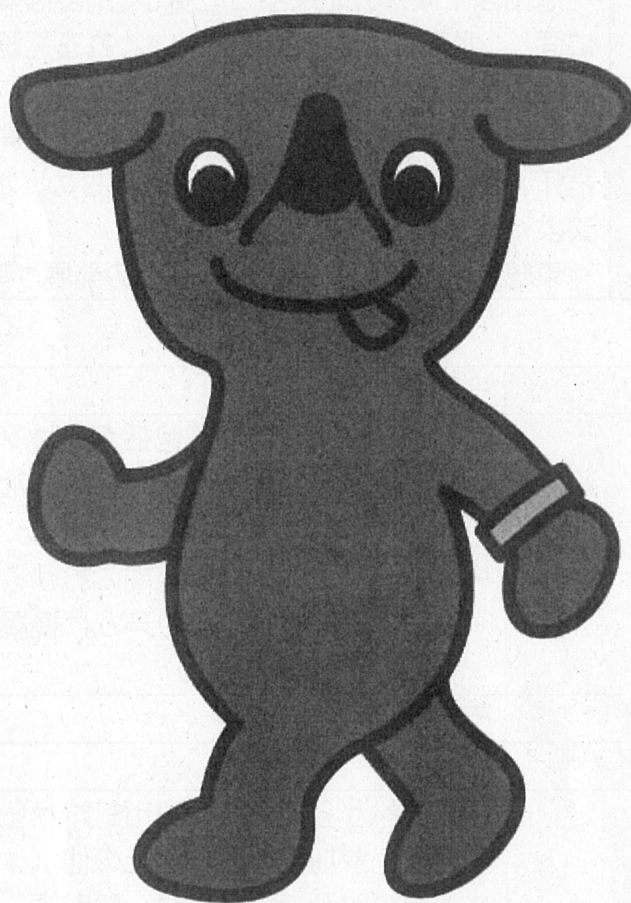


千葉県版チームオレンジ活動事例集



千葉県マスコットキャラクター
「チーバくん」

令和6年2月

千葉県健康福祉部高齢者福祉課

旭市

チーム名 【 】
タイトル 【 まずは自分の近所から！一歩一歩はじめています！ 】

1 自治体情報（令和6年1月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
62747 人	20,215 人	32.2%	130.48K m ²
旭市は こんなところ！	旭市は千葉県の北東部に位置し、南部は美しい弓状の九十九里浜に面し、北部には干潟八万石といわれる房総半島屈指の穀倉地帯となだらかな丘陵地帯である北総台地広がっています。 平均気温は 15 度と温暖な気候です。産業では施設園芸、畜産、稲作、露地野菜など盛んな農業をはじめ、水産業、工業などバランスよく成長しています。 東総地域の中核都市として今後の発展が期待されます。		

2 活動の概要

開始時期	令和4年10月
実施主体	☒ 市町村 ☒ 地域包括支援センター ☐ 住民・ボランティア ☐ 社会福祉協議会 ☐ その他（ ）
活動内容	・世界アルツハイマー月間における普及啓発活動 ・認知症高齢者等見守り声かけ模擬訓練 ・Run 伴 in 旭への参加
活動頻度	不定期
参加費	—
運営財源	☐ 市町村からの委託 ☒ 市町村からの補助 ☐ 会費・参加費 ☐ その他（ ） ※上記の財源 ☐ 市町村一般財源 ☒ 地域支援事業交付金 ☐ その他（ ）
メンバー構成	認知症サポーターステップアップ講座修了者（オレンジ協力員）、地域包括支援センター職員等
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 ※1	☐ 第1類型（共生志向の標準タイプ） ☐ 第2類型（既存拠点活用タイプ） ☐ 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） ☒ その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	☐ 3つの基本を満たしている ☒ 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

認知症サポーターステップアップ講座修了者（オレンジ協力員）へ、認知症関連事業への参加を呼びかけ、活動が少しずつ広がった。

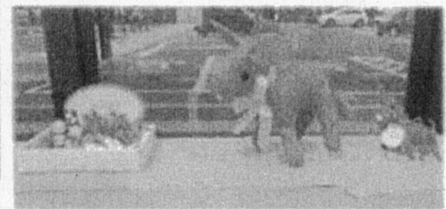
4 活動内容

1. 世界アルツハイマー月間における普及啓発活動

市役所庁舎内に認知症の普及啓発のパネル展示を実施。



手芸が得意なオレンジ協力員さんを中心に認知症サポーターキャラバンのマスコットキャラクターであるロバ隊長の展示物を作成しました。



2. 旭市認知症高齢者等見守り声かけ模擬訓練



高齢者が多く住む団地周辺で開催。市内のケアマネジャーや地域包括支援センターの職員に加え、オレンジ協力員や地区の民生委員さんも参加し、認知症高齢者役への声かけ訓練、見守りシールの読み取り練習を実施しました。

3. Run 伴 in 旭への参加

地域の医療・介護・福祉関係者とともに襷を繋ぐRun 伴 in 旭（Run 伴実行委員会の主催）にオレンジ協力員もボランティアとして参加。地域の関係者と顔が見える関係づくりが進む。



イベント内で見守りシールの啓発講座も実施しました。あさピーについている見守りシールのQRコードを読み取っています。



5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

オレンジ協力員が、活動に参加することが負担にならないよう配慮した。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

時期：令和4年9月、令和5年7月の2回実施。

時間：合計4時間（2日に分けて実施）

講師：キャラバンメイト、千葉県認知症コーディネーター等

内容：市の認知症施策、チームオレンジについて、認知症サポーターの役割、認知症の理解、コミュニケーションの基本・実践（ロールプレイ、グループワーク）、地域でできること・サポーター活動を考える

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

地域貢献の意欲があるオレンジ協力員が複数育成された。

<課題>

オレンジ協力員が定期的に集まり、活動する場が現段階でない。

8 チームのアピールポイント

「まずは自分のご近所から。」と、認知症を自分事として考える心強いオレンジ協力員が地域の見守り活動や、心配な高齢者の情報提供などで力を発揮している。

9 今後の活動について

今後は認知症の当事者である本人を中心とした活動に発展できるよう、本人ミーティングや認知症カフェの運営を進めていきたい。